

報 告

2021 年度九州支部大会報告

青柳 達也 (大会実行委員長)^A、原 隆幸 (九州支部長)^B

2021年12月26日に佐賀女子短期大学にて、グローバル人材育成教育学会第7回九州支部大会がハイフレックス（対面+オンラインZoom）方式で開催された。対面の参加者27名、Zoomの参加者25名、合計52名が全国各地から出席し、盛況で実り多い大会となった。大会テーマ「コロナ禍における留学に関する学生の意向と現状」のもと、半日のプログラムが構成された。

12時30分からの開会式は、西九州大学の園部ニコル先生の司会のもと、長澤雅春先生（佐賀女子短期大学副学長、現代韓国語文化研究センター長、グローバル教育センター長）による会場校挨拶から始まった。そして、引き続き長澤先生による40分間の基調講演「私立大学研究ブランディング事業とグローバル教育～地方短期大学のグローバル戦略～」をいただいた。佐賀女子短期大学が2017年に文部科学省私立大学研究ブランディング事業に採択さ

れ、短期大学唯一のダブルディグリープログラム実施校として、これまで韓国語運用能力に秀でた職業人材を佐賀から九州全域に輩出してきた経緯を話された。また、佐賀県にある加唐島は古代朝鮮・百済の第25代王「武寧（ぶねい）王」の生誕地として知られており、さらに慶長文禄の役（名護屋城）や、有田焼の祖である朝鮮陶工の李参平など、佐賀県と韓国は歴史的な事跡がある。そのため、現代においても韓国語教育及び韓国語文化研究の拠点として佐賀女子短期大学韓国語文化コースが発展を続けている内容をご紹介いただいた。

続いて、「コロナ禍における留学体験」と題するパネルトークを開催し、佐賀大学の佐々木有紀先生をモデレーターとして、このCOVID-19の世界的なパンデミックの中においても留学をした大学生3名と高校生1名がパネリストとして登壇した。東明館高等学校 Global Study Courseの細川愛美さん（留学先：カナダ）、明治大学政治経済学部安川暢恵さん（留学先：アメリカ）、大阪大学外国語学部タイ語専攻の吉村彩花さん（留学先：タイ）、佐賀

A: 佐賀女子短期大学地域みらい学科

B: 鹿児島大学総合教育機構

女子短期大学地域みらい学科グローバル共生コースの末武羽衣香さん（留学先：韓国）の留学体験はそれぞれ違っていても、コロナ禍における様々な制限の中、逆境に負けない強い精神を持つことを学んできたことを語ってくれた。学びを止めたくないという力強いメッセージに大会参加者は感銘を受けた。

その後、メイン会場とサブ会場に分かれて、13本（対面9本、Zoom 4本）の一般演題発表が実施された。メイン会場では、名城大学外国語学部の渡邊芽衣さん、山田明さん、高橋一見さん、中村美月さんによる「コロナ禍におけるオンライン国際交流会の実践報告（アジア諸国と日本を繋ぐプロジェクト）」と題する学生発表、愛媛大学の岩本みこ先生と隅田学先生による「アフターコロナにおける教員志望学生にとっての海外渡航経験の可能性と課題—オンラインプログラムの検討—」、大妻女子大学の服部孝彦先生による「異文化間能力を育む教育に関する一考察—SGHとWWLにおける取組—」、宮崎大学の川崎典子先生による「コロナ禍の工学部学生の英語課外学習状況に関する一考察」をZoomで発表いただいた。そして、「コロナ禍における大学生の海外への興味喚起—オンライン英会話プログラムの可能性—」阿川敏恵先生（清泉女子大学）、「コロナ禍でも国際化を止めない—国際化推進サークルの立ち上げ—」畑中みどり先生・孟涛先生（大阪学院大学）、「大学におけるグローバル人材を育成するためのコースの変容—コロナ前とコロナ禍を比較して—」原隆幸先生（鹿児島大学）が対面で発表された。コロナ禍における英語学習や国際交流活動などをテーマにした発表が多くなされ、現状と課題を活発に議論できたと言える。

サブ会場では、「【3・11】から10年—過去と現在、そして未来へ—：2011–2021 防災教育のあり方と世界で起こる災害に対する防災への意識の啓蒙について」山西敏博先生（長野大学）、「『グローカル教

育』再考：グローバル人材とローカル人材の乖離問題を問う」内田富男先生（明星大学）、「母語の発話流暢性と目標言語の発話流暢性に対する英語学習者の主観的認識」横川綾子先生（明治大学）、「学部横断的グローバル人材育成プログラムの可能性と限界：福岡大学G.A.P.プログラムの場合」佐々木有紀先生（佐賀大学）・新田よしみ先生（福岡大学）、「異質な他者との対話的学習による意識変容—A商業高校における多文化交流授業の実践から—」山田直子先生（筑紫女学園大学）、「国内外におけるオンラインを活用した生涯学習による人材育成の一考察」青柳達也（佐賀女子短期大学）の発表がなされた。幅広いジャンルの発表となったが、特に英語学習の取組においては有意義な意見交換をされていた。

基調講演とパネルトーク、パネルトークと一般演題発表の間の2回にわたり、株式会社アルク、株式会社エル・インターフェース、株式会社エヌ・ティ・エス、株式会社グローバルクリック、株式会社桐原書店によるプレゼンテーション（対面4社、オンライン1社）が行われ、対面の4社は書籍販売もあり、充実したアピールの機会を賛助会員の方々にも提供することができた。

今回は、支部大会としては初めての対面とZoomの両方を駆使したハイフレックス方式となったが、オンラインで登壇した学生パネリストや一般演題発表者においても配信トラブルもほとんどなく、安定したスムーズな大会運営をすることができた。今後しばらく続くであろうコロナ禍における大会実施のモデルケースとなったと思われる。

支部大会の最後に九州支部総会が実施され、今回の大会実行委員長であった青柳達也の次期九州支部長の就任の承認を得た。

文責 青柳達也

受付日2022年1月26日、受理日2022年1月26日